

検討テーマ：「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	課題	方策
訓練内容	<p>○実のある訓練にしたい。</p> <p>○避難所生活体験なども取り入れたい。</p> <p>○トイレの問題、地域によっては大きい。</p> <p>○雨天でも中止せず、様々な場面を想定した訓練も重要。</p> <p>○自然災害に対する町民の意識付けをどの様にしたらいいのか課題。</p> <p>○崩壊した家の人を救うのは危険。救出救助に関して、ある程度の知識や技術がないと実際は難しくて出来ないのではないか。</p> <p>■消防団員が高齢化。入団希望者がいないことが課題。</p> <p>■自主防災役員が1年交替だと内容がわからない。長期選任すべく数名あためてみたが断られた。担い手がない。</p> <p>■一番の問題は時間帯。雨だと小学校なので中止にせざるを得ない。訓練が雨で中止なのはおかしい。</p> <p>■最終的に大事なことは個々の防災意識。防災に関しては40～50代が主力だと思うが、自分達が主体となる意識は低い。</p> <p>■大災害発生時、市・県・国でできること、できないことをまず周知してほしい。</p> <p>■市で災害時を想定した問答集を作成してほしい。例えば断水状態、停電状態、食糧・水不足、寒さ・暑さ等、最悪の状況を想定した上で行動を問いかける等。項目は少なくてもよい。</p>	<p>○訓練内容はマンネリ化しているが、一つに集まることによる「意識の向上」は、備えの一つである。</p> <p>○集合体はまず家庭⇒組⇒町内となる。家庭での訓練、組での訓練が出来れば、町内でもまとまり易い。</p> <p>○個々に意識を持たせるには、小さい事からやっていくのが良い。</p> <p>○大工やとびの人などの人材リストを作って、災害時の救助の協力を依頼しておく。</p> <p>○長伏小学校は御園と長伏の避難所。3年に1度でもいいので、せめてその二つは合同で訓練をやったらどうかと思う。</p> <p>●御園は地震、火災、水害の心配があり、消防団の存在意義は大きい。団員確保の取組は大事。</p> <p>■訓練の設定を見直したい。例えば夜の訓練実施(3年に1回程度)、雨ならカッパを着用し公園駐車場で実施する。</p> <p>●問答集は市で検討する。</p>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	課題	方策
学校と地域の連携	<p>○引渡し訓練は、幼稚園と小・中学校の連携が必要。実際に親はどの順番で引取るのか悩む。</p> <p>○いざ事が起きたときに、一番動けるのは中学生だと思う。中学生が地域に入って、どの様に活動するのがベストなのか考える必要がある。</p> <p>○学校に子どもの参加をお願いしている。公立の高校生は証明をもらいに、それだけを目的に来る子もいる。</p> <p>○長伏小には、保護者に引き渡せなかった場合の子どもの為の備蓄がない。教育委員会の方で現在検討中。</p>	<p>○日頃から挨拶しながら、中学生と触れ合っていないと、なかなか一緒に活動はできない。</p> <p>○具体的な方策が出てきて、若い方も加わって防災訓練が盛んになり、それをきっかけに地域づくりが生まれていったらいいと思う。</p>
要援護者の支援	<p>○寝たきりの方の救出が実際可能か不明。</p> <p>○要援護者名簿だけでは、実際にどれだけの要援護者がいるのか把握するのは難しい。</p> <p>○要援護者で家族がいる方はいいが、寝たきりの方に笛を渡しても吹けない。</p> <p>■市で要援護者に笛を渡しているが、家族と同居していても状況によっては災害時一人の場合も有り得る。配布する笛の本数を増やし、配布する対象を多くしてほしい。</p> <p>■会長・役員が災害時にすぐに救助体制を作り要援護者の救助に向かうことは不可能。要援護者からの隣近所への声かけが迅速な救助につながるのではないかな。</p>	<p>○民生委員や市と協力しながら、町内会、組長が力を発揮できる状況にしたい。</p>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取組み	取組みの担い手／アイデア
訓練内容	<p>○家の中の逃走経路など確認</p> <p>■長伏と御園の合同訓練についてはこれから話し合いを進めていく。</p> <p>■内容よりも訓練を通じて家庭での準備・心得・連絡方法等を改める機会にしてもらいたい。</p> <p>■9月の暑さ対策や中学生の部活の関係から来年度は11月開催を目指したい。</p> <p>■訓練は毎年同じような形式で実施。マンネリ化でも身体で覚える意味で正しい。</p> <p>■防災訓練を通じて過去の事例を思い返すことで防災への意識付けが可能。</p>	<p>○日ごろから、各家庭で話し合う</p> <p>■今年、消防団18分団が三島田方地区で優勝し、県大会では最優秀選手も選出された。今年は訓練時にポンプの模範操法を披露してもらおう。団員増加につながるとよい。</p> <p>■団員の確保に関して、入団希望者がいないのが実状。普段地域にいる方に年齢問わず入団してもらおう。中学生が訓練で三角巾を経験⇒防災意識向上⇒消防団入団のきっかけになればよい。</p> <p>●県の地震防災センターに町内の人を連れて行き、防災意識を高めることも有効。</p>
学校と地域の連携	<p>○日ごろより挨拶の輪を広げる。</p> <p>■中学生には地域の防災訓練への参加を呼び掛けている。部活のため9月は参加しにくい。</p> <p>■小学校では9月に防災・防犯の日を設定し、1年生から6年生まで色々な訓練を実施(消火訓練、起震車体験、スモーク体験、非常食試食等)。小学生なりにできることの意識付けが重要。</p> <p>■フェアキャスト(通常・追掛連絡の2種類を使用)を子どもの引き取りの情報伝達に活用。道路が寸断された場合の子どもの引き取り、また自宅不在時の対応など幅広い意見交換の場が必要。</p> <p>■松本幼稚園ではフェアキャストが使用できない状況を想定し、引渡しカードを作成。また必ず中郷西中に避難することを徹底している。中郷西中とは日ごろから交流し園児が避難場所に慣れるよう協力・連携している。非常食について来年度は水と軽食の用意を検討中。</p>	<p>■防災訓練が11月か12月、できれば同日一斉開催だと、中学生はより参加しやすくなる。</p> <p>■昨年は学校行事と重なり中学生が不参加だった。今年は中学生の予定を考慮し日にちを設定。</p> <p>■子ども達の防災意識の向上が保護者の啓発につながる。</p> <p>●今年、西小と錦田小が防災キャンプ実施。防災の備え・意識にかなりの成果があった。また北小ではPTA主催の防災学習を実施。参考にしてほしい。</p>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取組み	取組みの担い手／アイデア
要 援 護 者 の 支 援	<p>○要援護者の実態調査</p> <p>■要援護者リストをもらい、民生委員へ渡してある。組長へ渡すかどうか検討中。春、組ごとに各世帯の家族構成を調査してもらった。組長へ避難時の声かけをお願いしているがそれ以上は進んでいない。</p> <p>■老人会では、未入会者を役員で回って勧誘する予定。他地域から来た人の参加が難しい。会員数増加だけでなく、まとまってひとつの目的を達成することが大事。</p>	<p>●他地区では別組織で要援護者サポート隊がある。芙蓉台、富田町、大社町を参考にしてほしい。</p> <p>●自治会・町内会総会などに各団体委員を呼び、人材活用について話し合いを進めてほしい。</p> <p>■元気な高齢者には老人会入会を勧めたい。運動会にも老人会を招待すれば地域の方とふれあう機会になる。</p> <p>■体育振興会の活動にはお年寄りが多く参加。市や県の大会に参加するなどたいへん活動的な方もいる。元気な高齢者へ要援護者支援体制の呼びかけも一つの方策。</p>